

海域の概要

本湾は、三陸海岸に存在する湾で、湾入り口には荒神海水浴場があります。湾内には弁天島・野島などがあり、ワカメ・ホタテなどの養殖漁業も盛んです。



Specification

諸元

湾口幅：3.1 km

面積：9.4 km²

湾内最大水深：55 m

湾口最大水深：55 m

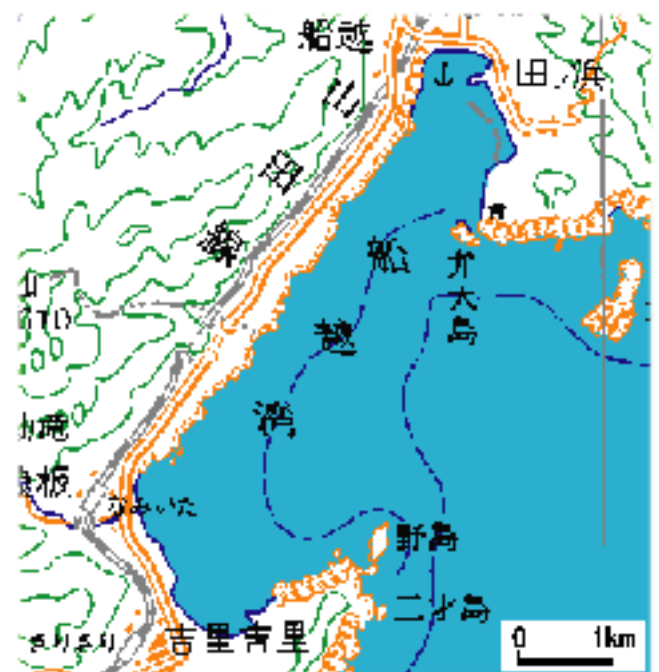
閉鎖度指標：0.99

備考：環境基準類型指定水域

Location

範囲または位置

岩手県上閉伊郡大槌町野島鯨鼻から 18 度に引いた線、同島南端から 236 度に引いた線及び陸岸により囲まれた海域。

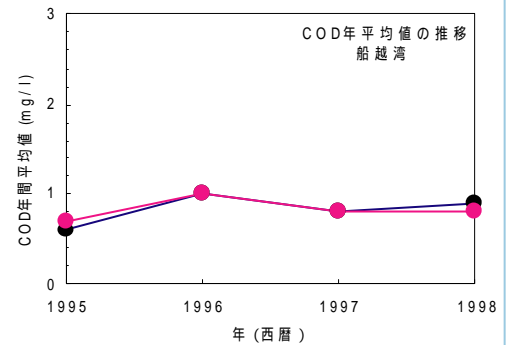


環境

湾口を太平洋に開いた湾で、沖合で黒潮続流と親潮がぶつかっています。夏季には海霧が発生したり、北東の冷風が吹き込むことがあります。

流入する河川は小河川が2本で、湾岸には大きな集落もないことから、水質は良好で、COD値年平均値の変化をみても、ほぼ1 mg/l前後で推移しています。

底質は岸付近が一部岩礁の他、砂質となっています。



自然

船越半島は、壁岩・磯・赤松など海岸性原生自然の景観に優れ、学術的にも価値が高く、本州に残された最後の秘境と言われ、昭和30年には陸中海岸国立公園に指定されています。

湾奥には寄せる波はあっても返す波のない「片寄波」で有名な浪板海岸があり、約500mの白い砂浜と松林は、海水浴のほか、サーフィンやキャンプ場として利用され、「日本の水浴場88選」にも選定されています。

湾内には、ホンダワラ類やコンブ類等の大型褐藻類の藻場が岩礁部に分布する他、藻長が7mという世界最大とされるタチアマモの群落が発見されています。

湾口のタブの大島（岩手県天然記念物）は、亜熱帯植物タブの木の北限地で、花崗岩が波によって削られてできた海蝕棚の千畳敷になっています。



タブの大島

文化歴史

船越湾は山田町と大槌町にまたがっています。

湾南部には井上ひさしの小説「吉里吉里人」の吉里吉里王国の海岸があります。キリキリはアイヌ語で白い砂浜を意味します。

産業

リアス式海岸の静かな入り江が養殖に適した大槌町は、わかめの名産地です。コンブやマツモ、ヒジキ等の採藻やアワビ等も漁獲され、また、湾内はカキ、ホタテ、コンブの養殖場としても利用されています。



船越湾で漁獲された水産物